1099.8

陸軍當局及吉田器兵局長の言明に對する辨駁書

本年三月東京砲兵工廠は、小石川、王子の諸工廠從業員に對し、日實の下に十時間の勞働を九時間に短縮した。當時、當局は都下の諸新聞に、『九時間の勞務時間になつても、請負制度であるから職工の勤怠に依つて、收入は多少變化があるけれども、現在の收入より減ずる事はない』とあつた、それ丈け仕事があれば何故時間をつめたのか、處が四月十一日（本廠）仝十二日（王子）の半期の給料は實際に於て一割五分乃至二割五分の、減收となつた

それで今度の運動を起したのだ、それを當局の計算では、五分乃至八分位しか、減收にはなつて居らないと言つて居る、これはいづれが眞實であるか。諸君の御判斷にまかせる。

年度賞與を三月末、支給しないので諸君の不平であつたことは事實だ、で今度の昇給の問題も、七月に昇給させるのが例であつたのだが、六月に昇給させた、それは七月に昇給させると臨時賞與に一度に出さなければならない、諸君の不平が、臨時賞與と双方が混同すると不平が大きくなるから一づゝ區分して諸君の不平を切崩そうと言ふ手段に過きない、で實際は今年の臨時賞與は、支給しない心算であつたのだ、吾々は當局が事更に、以前から支給する心算であつたのだと言ふなら、それでもよい何も此度の運動で十日分臨時賞與をもらつたのだと意地張りはしない兎に角く此際相互に困るのだから、どんな名稱でもよいから、一錢でも澤山もらつた方がいゝではないか

臨時手當近々にとると言ふ事は、諸君は、聞いて居る筈だ、殊に、武田庶務課長が、毎夕新聞に臨時手當を近々に取るかも知れないと、言つて居る。

其の舌の根の乾かないうちに、當分臨時手當は取ないと新聞にも、又諸君に傳達したそうだ、そうしてこれも以前から考へて居つた事だ、そうだ、まあ何でもよい吾々の給料の減らない事なら、少し位、勝手な熱を吹かして置かう。

共濟組合の、一年未滿の退職には、自分の積立した金すら取れなかつたものを、これも今度朝日新聞に當局は以前から考究中であつたのだが、今度、愈々發表したのたそうだ、馬鹿に陸軍省は、以前から吾々勞働者の生活改善を、考究したものだ、蚤の樣な勞働者を斯く心配して呉れるかと思ふと、有難涙だがこぼれる

然し委員が、最初吉田兵器局長にあつた時、大尉や少佐が鉛筆や用紙を以て我々の陳情を筆記して行つた、其の中に共濟組合の、一年の問題に花が咲いて居た、それを二三日經つて朝日新聞に發表した、そして陸軍次官に會つた時もう以前から研究中であつて今日發表したのだと言つて居た。馬鹿らしくて物が言へない、何が研究中なものか、皆我々の團結の力なんだ

臨時賞與も、支給しない心算であつたし、臨時手當も取る考へで居つたのだが、正義の叫びがうるさひから、勝手な理屈をつけてくだらない、今度の樣な發表したのだ。

陸軍大臣會見云々に就いて

委員連が陸軍大臣官邸に押掛けて、山梨大臣に面會を求めた、處が首相官邸閣議中であると言ふから、直くに總理大臣官邸へ出掛けて、面會を求めた漸くにして秘書官か、玄關番か知らないが、今日は午后二時から東宮殿下の活動寫眞のお催しかあるから、會えない明日はどうも都合が惡るい明後日十日の午前中に、秘書官の方へ電話を掛けて呉れ、面會するからと言つて來た

委員連は明後日では都合か惡るいから、山梨大臣の會える時間までこゝに待つて居るから、貸して呉れゝと言つたら、首相官舍の、玄關子が迷惑そうな顏でそれでは困るから、是非明後日までに會ふと云ふのだから、歸つてもらいたと云ふから、委員連は仕方ないから歸つ來たのだ。

然るに會ふ約束をしないとか、十日の日は神奈川縣へ行く約定してあるから、そんな約束をしない云ふに至つては二枚舌にも程がある、委員連が諸君を欺いて、陸軍省に押かけて示滅的脅威行動とを敢いて爲したる如きなどと、反對にこちらを非難して、諸君の運動を防害しようとして居る、當局の行動及び言明に至つては聞捨てならない。

殊に笑止千萬なのは、國家の干城を指揮すべき陸軍に、五百か千の勞働者が食ふに食はれないからお願に出掛けたのに『示威的脅威行動』を敢ひて爲したる等とゝ云ふに至つては、泣事にも程がある『やくわんが天狗に見える』と云ふのはこの事だ日本の陸軍も、こうなると心細い、それのみか當日百名以上の警官を以て邸外を警戒し、　其外武裝せる憲兵數十名を一室に屯うせしめ、我等八名の代表者を滅壓したる如き、主客顚倒の申分ではないか。

誠意が無ひと云ふが疲勞の身を炎天に運び程の誠意が、何處にあるか千人位では少なくて、誠意を認められなひとふふ事であう

僕等は陸軍大臣が、會う迄るや團結の力で社會の輿論に、訴へよう大臣は果していつ迄も會はずに居れようか會たくばいつでも會に行く、職工代表を認るとか、認めないとかと云ふ小問題でない、認めないなら、要求案をなせ、尾野陸軍次官は受理したが、智の足りないのにも程がある『頭かくして尾かくさず』とはこの事だ。

諸君、泣事に耳を貸すな、此度の運動は食いない切なの運動ではないか

實行委員總代

安達　和

横田晃一